

## 令和元年度第2回亀岡市総合計画審議会策定部会 議事要旨録

日 時：令和2年1月29日（金） 15時00分～17時00分

場 所：亀岡市役所 別館3階会議室

出席者：鈴木部会長、川勝副部会長、青山委員、大石委員、坂本委員、内藤委員、三宅委員、山口委員

一般社団法人 亀岡市観光協会 内田事務局長

欠席者：岸委員、楠委員、多胡委員

議 題：1 開会

2 議事

(1) 人口見通しと課題について

(2) その他

3 閉会

### 1 開会

#### 事務局

- ・審議会全体会に引き続きお願いする。
- ・進行を部会長にお願いする。

#### 部会長

- ・長時間になるが、人口見通しと課題は内容も非常に重要な部分。
- ・全体会でも話があったが、若い女性の動きも重要であろう。現在の状況について、詳細な資料を作っており、人口見通しの中で、人口だけでない課題が見えてくると思う。選択と集中となる部分があるかもしれない。資料の説明をお願いする。

### 2 議事

#### (1)人口見通しと課題について

#### 事務局

—資料No.1、資料No.2、参考資料1、参考資料2に基づき事務局説明—

#### 部会長

- ・議論の前に、確認したいことがあれば、質問してほしい。
- ・事務局から2点、協議事項があった。1点目、第4次亀岡市総合計画においては定住人口10万人を想定し、まちづくりの計画を進めていたが、現在の推計では、2030年の亀岡市の人口が約7.7万人、2040年には約6.6万人という数字が出ている。そのような推計が有る中、どういった点を踏まえ、人口を考えていくか。2点目は人口だけでなく市の活力、にぎわいをどうとらえながら、どのように進めたらよいかについての議論。まず、1点目についてご意見をいただ

ければと思う。

#### A 委員

- ・合計特殊出生率は人口にかなり響いてくると考えている。参考資料 1 図表 7 において、合計特殊出生率 1.31 程度で推計されるという話であった。今後、合計特殊出生率を改善し、人口を支えしようとしているように思われた。
- ・京都府北部の宮津市、舞鶴市、福知山市は合計特殊出生率が 1.5 を超えており、2.0 以上の市もある。昨年は福知山市が府内の合計特殊出生率トップで、北部では子どもが生まれている状況で、亀岡市が 1.3 程度というのが解せない。
- ・「少子高齢化」と一言で語られているが、少子化は政策でなんとかなると思う。北部で高い出生率が維持できている原因分析を行い、要因がわかれば、亀岡市の計画の中で、そのような政策を盛り込むことができるのではないかと。
- ・島根県海士町では出生率が上向いている。徳島県神山町もいろいろな政策が功を奏し、外から人が入って子どもも生まれている。全国を見ると、人口を増やし、子どもが生まれるという状況はないわけではない。
- ・国の政策は少子化をベースに計画を進めている。また、国の政策は、東京の発想を地方に押し付けていると感じる。
- ・亀岡は京都市に近く、プラス要因があるため、出生率を高める政策があってもよいのではないかと思う。この点については、「人口をどうする」といった問題だけではなく、他の政策をどうするか、に重点があると思う。
- ・京都府内に、合計特殊出生率 1.5 以上を達成しているところが多くある。例えば、舞鶴市は、人口が減っているけれども、合計特殊出生率は 2.0 を超えている。亀岡市の合計特殊出生率は低すぎる。その点を底入れする施策があってもよいと思う。その点について、政策を考えているか。

#### 部会長

- ・今後考えなければいけない点である。亀岡市の合計特殊出生率が低いのは都市型であるためと理解できる。

#### B 委員

- ・北部や精華町等は出生が増えている。京都市と京都市に隣接するところ、都市化が進んでいるところの出生率は極めて低く、府全体の低さは京都市とその周辺の低さで説明されている。合計特殊出生率が低くなっている要因は、都市化現象が反映されているものではないか。しかし、都市化をやめなければいけないというわけではない。
- ・出生率を引き上げる方策は多様な対策で時間をかけてしか回復できないと思う。参考資料 2 について、それぞれの自治体の現在人口を入れてほしい。参考資料 1 5 ページに出生率の数字があるが、平成 29 年まで数字が出ていると思うのでアップデートしてほしい。
- ・人口問題をどう考えるか、については、計画において極めて重要であると思う。第 4 次計画で

は定住人口の目標 10 万人について議論があったと聞いており、無理だという意見もあった。人口減少時代を考慮すれば、他の自治体のように、想定人口を掲げるのがふさわしいかどうかの問題だと思う。計画の基本だが信頼性にも影響する。

- ・無理して高い人口を掲げることは計画自体の信頼性を損なう。そのため、推定人口を掲げることは反対である。市民を元気づけるのであれば、交流人口等の数値を示し、前向きな面を示すべき。想定人口を掲げることは見送った方がよい。交流人口、関係人口等により、市民を元気づけてほしい。
- ・資料 2 にある社人研推計は、どのようにして作られているか、もう一度考えるべき。次の国勢調査を行ったら、ベースとなるスタート値が下がるため、それを想定しないとシナリオ通りにならない。
- ・将来推計は、民間（日本創成会議）の数字の方がリアルに近い。社人研推計は移動人口が減っていくシナリオ。日本創成会議では、移動人口はこれまで通り活発に動いていく想定で作られており、そちらの方が減少率大きい。
- ・将来推計は非常に難しい。これだけでは、住民心理の前向きなマインドが高められない。交流人口、関係人口をうまく使うべき。

#### 部会長

- ・1 点目は総合計画であるから前向きなものを見せていきたいという意見。まちの発展の姿、方向を示していくべきであるということ。
- ・2 点目は総合計画の中に現実的ではない数字をいれる必要はないということ。現実的な数字を示すことで、計画の信頼性を高めたいということ。
- ・3 点目は示す人口の数字について、どうすべきか。昼間人口やにぎわい人口、交流人口、関係人口等様々な形態を示す方が有効ということだった。

#### C 委員

- ・定住人口 10 万人は目標として高すぎるので見直すのは良いが、基盤整備について考慮する必要がある。交流人口等に基づき設備投資や、基盤整備ができるのか心配。定住人口の目安があってもよいのではないか。
- ・インフラ整備を含めて市民サービスをやらしてもらわないといけないので、定住人口という見方も考慮すべきだと思う。

#### 部会長

- ・上下水道、公園、公民館、学校等を考えるにあたって、推定人口を出していく必要があるという意見。推定人口も様々な出し方があると思うので、どれを使うのかも検討する必要がある。

#### D 委員

- ・教育・健康・高齢者福祉を専門にしている。このまちでいかに住みやすく、生きがいを持って市民が住めるかを考えていかないといけないと思う。

- ・資料No.2 図表 2 において、夜間人口と昼間人口を比べて見ると、定住人口が減るとともに昼間人口割合が低下していることがわかる。超高齢化社会を考える上で、昼間人口割合は考えるべき指標の 1 つだと思う。
- ・若い女性が定住することは、まちの活性化につながると思う。参考資料 1 5 ページ図表 9 で流出・流入の状況が示されており、亀岡市から流出 2 万人、流入 8,000 人となっている。なぜこれだけ流出していくのかの原因分析は亀岡市の人口問題を考える上で重要だと思う。

## 部会長

- ・図表 9 は昼間人口を示しており、京都市に約 12,000 人通勤・通学をし、京都市からは亀岡市に約 3,000 人通勤・通学している。昼間のにぎわいが重要ということと、女性について意見をいただいた。
- ・消滅可能性自治体の話では、出産する女性の人口に応じ、人口が大きく影響するということがあり、女性の問題は大きい。

## E 委員

- ・高校生や、若い女性の定住率が低いとのことで、男女一緒だが大学に行ってその後就職する際に、亀岡市には職場がない。
- ・日中に若い女性をとどまらせるのは、結婚して、子育てをする場が重要だと思う。民生委員として子育てに関わっている中で、亀岡市で出産する人が少なくなっていると感じる。4 か月検診でも 12 年前は 10 人以上のグループが 1 日 3、4 回を月に 2 回だったが、最近は 10 人不足のお母さんが 2、3 回であり、子どもを産む世代が減っていると実感している。
- ・亀岡で子育てしやすい環境をつくることで、嫁いだ人が帰ってくる、そして、子育てするのであれば親に近いところで、環境の良いところで子育てしたいと思えるのではないかと。子育てがしやすいまちづくりが一番重要だと思う。

## 部会長

- ・子どもは地域社会の宝という考え方をどこかで示すべき。他のまちよりもそういうまちであるというイメージを高校生、中学生の男女ともに伝えていける環境が重要だと思う。

## B 委員

- ・亀岡市に住んでいて実感として道路整備の重要性を感じる。ダブルルートも大きな問題である。それを考えると想定人口を上積みして、整備について国の機関と折衝することも重要かもしれない。
- ・しかし、人口はピークから 1 万人減っており、住民に料金負担を含めてお願いする状況が出てくる。市民視点で考えると、人口が維持されるなら従来通りのサービスを受けられて当然という感覚になる。しかし、想定人口を上積みした上で、負担をお願いするのは市民の理解が得られないだろう。
- ・正直に人口が減ることを示した方がよい。人口が高止まりの状態であれば、負担はいらないと

いう市民の反応になる。現実離れた数字を出す信頼性が得られない。

#### F 委員

- ・ 定住人口を出さない方が良いという意見もあったが、どちらかというと思う。人口問題は社会の構造の問題や時代の流れもあり、動かしにくい問題である。目標という形では出すべきではないと感じる。

#### 部会長

- ・ 他市町村の事例も踏まえ、目標については検討していく必要があると思う。

#### G 委員

- ・ 参考資料 2 では、各市の総合計画における人口の捉え方の苦勞が見える。人口の目標を設定している市においても、人口ビジョンで目標を設定し、表現を「想定します」や、「推計します」という表現になっている。
- ・ 人口ビジョンを策定しているのであれば、市民理解を得るためにも、人口ビジョンを使いながら表現するのも一つのやり方。一定の数字を示して目標にする。しかし、表現の仕方は考えるべきだろう。
- ・ 資料No.2 のとおり、観光入込客は増えている。特にインバウンドが多い。京都府立京都スタジアムの完成、ドラマ館オープンも追い風となっており、国内の観光客及びインバウンドの増加が見込める。特にインバウンドは、アグリツーリズム等により欧米にアピールを進めていく。そのため、にぎわい人口、交流人口など、観光のあり方も脚光を浴びていく。そこは書き込んでいくべき。

#### 部会長

- ・ 森の京都もされているので、アグリツーリズムも盛んになると思う。

#### D 委員

- ・ 高齢化が進み、就労年齢の方が市外に流出していると昼間は高齢者しか残らない。そのため、昼間人口をどうやって増やすかの視点が大事。
- ・ 観光ではスポーツツーリズムも盛んになっている。アンケートにあったように、亀岡市の良いところは自然が多いところ。利点を活かすのであれば、亀岡市の自然を活かしたスポーツツーリズムを開発し、売り出していくことは重要である。川と山があり、パラグライダー等もある。

#### 部会長

- ・ 人口の指標において、どう上げていくか、についてご提案をいただいた。保津川のラフティングなど、人気が高まってきているところ。
- ・ 都市部に近いというメリットもある。

## A 委員

- ・役所が所有する山、民地の山共に荒れ放題という状況であるが、株式会社冒険の森というのが。そこでは、山から木を伐り出すロープウェイを作り、ジップワイヤーを使って遊びに使う仕掛けをしている。大都市周辺で何か所か展開し、儲かっている。スポーツ・アドベンチャーなのか不明であるが、親子連れが来ることで、森林の手入にも繋がっている。また、森林を活用し、間伐ができていないところを冒険の森の事業で綺麗にし、切った材木を再生可能エネルギーに使うこともできる。
- ・スポーツ関係では、スタジアムとサイクリング、川下りなども繋げることができるのではないか。昨年行ったドイツの田舎の例であるが、周辺の村がダム湖を活用してアグリツーリズムと湖水を使った水のツーリズム、野鳥観察のツーリズム、スポーツツーリズムを複合的に湖水の近くに配置をし、ネットワーク化させていた。民泊から宿泊税をいただき、宿泊税を全体の関連組織が作った団体にあげ、集客のための事業をやっていくという面白い展開をしていた。スポーツツーリズムを提案いただいたが、他にも要素があると思う。もっと増やしていければよいと思う。

## 部会長

- ・昼間人口を考えるにあたって意見いただいたような施策があるだろう。

## 副部会長

- ・人口目標はまちづくりの基礎。それをもって説明するのがわかりやすい。
- ・昼間人口についてだが、亀岡市はベッドタウンとして発展してきた。亀岡市内において、5年ほど前は女性の正社員雇用はほぼなく、亀岡市在住のパートで働く方は、子育ての関係などで京都市に行きづらい人が多かった。以前は京都市内と比べると、賃金が安かったが、今は亀岡市に工場が進出し、女性も男性もパート賃金は上がっている。
- ・昼間人口を増やすには働き口が少なく、増やしていかないといけないが、市内で工場を建てる場所がないのが現実。この点をどう考えていくかは大事なことだと思う。
- ・東京近辺のベッドタウンとして発展したところは亀岡市以上に流出が激しいと聞く。昼間人口を如何にして増やすかは大切であると思う。
- ・昼間人口を増やすにあたっては、今後インフラ整備も必要であり、そのためには人口の目標がいると思う。

## 部会長

- ・様々な意見があるが、適正なものがあると思う。資料No.2 図表2を見ると、平成27年に昼間人口は約13,000人が流出しているが、流出した人口をどれだけ埋めることができれば適正なのか、他の市町と比べることも必要。
- ・それに応じて、工場やアグリツーリズムなど、どこで雇用を生み出していくのかが出来上がるのではないか。
- ・人口の問題について、特にどこの部分を増やしていくと人口フレームとしてよいのか、検討し

たい。亀岡市において合計特殊出生率の改善が示されているが、何かを行うことで、合計特殊出生率が上がるということを示せたのではないかと思う。昼間人口も観光や地域開発、産業振興等を踏まえて、施策を展開することで、一定のフレームを検討できるのではという意見をいただきたい。施策の追加、または目標にすることができると思う。

## B 委員

- ・定住人口を増やすには雇用機会をどう確保するか、どのように誘致していくかがポイント。環境都市ということが亀岡市のポイントになる。プラごみゼロが成功すれば、子育て環境としてのポイントにもなっていくことが考えられる。関係人口、交流人口の増加は人口増加のプラス要因。定住人口が伸びないことだけを心配しない方が良い。行き来する人が増えることは、まちの良さを次第にわかっていくことに繋がるのではないか。

## 部会長

- ・亀岡市のポテンシャルが高いということを表現していただいていると思う。

## B 委員

- ・合計特殊出生率 2.07 はとても到達できないし、いくらか上がっても人口増加のインパクトにはならない。

## A 委員

- ・合計特殊出生率を 2.0 に戻そうという訳ではないが、北部の市で合計特殊出生率 2.0 以上が実現できているのになぜ亀岡市でできないのか。京都市に近いこともあるが、近いからもっとやりようがあると思う。
- ・若い母親が亀岡市は住みやすそう、子育てしやすそう、移り住もうと感じてもらえる施策が必要。そのような方は、子育てに関連するものだけがあれば良いのではなく、例えばおしゃれなカフェに行きたいというニーズもあるだろう。このような視点は観光にも結び付く。
- ・若い女性をターゲットとし、その人達がくると男性も来るのではないか。
- ・若い女性がどんなことを欲しているのか、どこの評価が高いか、低いかを読み解くことで、政策につながっていくのでは。
- ・観光協会に聞きたいが、北部では観光に携わる人材不足が課題となっており、ホテルにおいて、部屋はあるがサービスする人がいない。100 室あるホテルでも 70 室で満室にしている。観光バスも運転手がいないので、バスをチャーターしたいと希望があっても京都、大阪の業者に願う状況。亀岡市の場合に温泉旅館での人手の問題はないか。

## G 委員

- ・湯の花温泉では聞いていないが、市全体の課題として宿泊客数が少なく、周遊に結び付いていない。湯の花温泉には 6 つ旅館があるが十分に回っている。シティホテルがないが駅北で 2 棟建つとのことで、ぜひ、滞在する人を増やしたい。

- ・一方で、警備やバスの関係では人手不足という話を聞いている。
- ・亀岡は、ツアーを呼び込む必要があり、大河ドラマの「麒麟がくる」でもツアー造成をしている。周遊できるシステムづくりを考えていきたい。

#### D 委員

- ・子どもを産む年代の女性を増やすことが議論になっているが、子育て中の母親が住みやすい、暮らしやすいまちとなれば亀岡市で子どもを産んでくれる女性が増える。
- ・カフェという話もあったが、アンケートの中で、転出を考えている人は買い物や通勤・通学が不便と答えている人が多い。乳母車を押して買い物に行くのはとても大変である。身近なところで買い物ができることは、住みやすさに繋がる。
- ・また、子どもの教育が充実しているという割合が低い。安心して子供を産み育てていける医療・福祉サービスが充実していることが一番大事だと思う。そのあたりが暮らしづらい状況が亀岡にあり、アンケートに反映されているのではないかと思う。もう少し精査することで見えてくるのではないか。

#### 部会長

- ・女性の方が考える生活環境に対する考え方について意見をいただいた。どれだけのものがあれば OK と考えるかも検討が必要。

#### D 委員

- ・子育て中の母親のニーズに耳を傾けていくべき。

#### 部会長

- ・今度事務局において子育て世代のニーズ把握をされると言われていた。ニーズをくみ取っていただければと思う。

#### C 委員

- ・亀岡市も苦勞しているとは思いますが、工場が少ないことや昼間人口が少ないことが問題としてあげられていた。
- ・市街化調整区域で住宅がつかれないという足枷がある。亀岡市では既存集落まちづくり区域指定制度、京都府の移住促進特別区域に取り組んでいるが制限があり、若年の子育て世代が移住してくれない。生徒も少なくなっている。
- ・平成 24 年に重大事故があつてから、子どもの登下校時に高齢者が出て、地域で見守っている。地域で見守っているというイメージを植え付けたい。学校の先生にも、子どもを預けても安心できる環境であると PR をお願いしている。しかし、なかなか成果が上がっていない。
- ・外からの意見は非常に大事で、厳しい意見をもらう方がよい。湯の花温泉において、温泉客も徐々に増えているが、滞在人口も少なく、トロッコで上がって、保津川下りで帰る状況である。PR も含め、いい知恵があれば教えてほしい。



## 部会長

- ・イメージは重要。地域として子どもたちを大事にしているというイメージを作ろうとしているのは大切なことである。このまちがよくないというイメージを最初に作ってしまうと、教育環境、買い物環境が良くないなどといった感覚になってしまう。こういう感覚にならないようなまちづくりが重要。

## A 委員

- ・次々面白いことやっているイメージがあると、まちは動いていく。新しいアイデアを取り入れていくとまちなりの雰囲気が変わる。
- ・7年ほど前、久御山町のマップづくりを手伝った際に若いお母さん方とまち歩きを行った。久御山町は外から来た人が多く、いろいろなニーズがでてきた。そういうことを一緒にまち歩きをしながら議論をした。ここが危ないといった話し合う場があると、アイデアが出てくる。これだけが要因ではないものの、マップができた後にも若いお母さん方中心にまちづくりが進んでいる。農家の人もイオンが横にあるということを活用していこうということが少しずつ起きてきている。
- ・簡単にはいかないが、まちが頑張っているというイメージを作り、外の人に伝わると少しずつ注目されていく。亀岡市は財産をいっぱい持っており、もっと何かできるのではと思う。
- ・京都市にも亀岡の豚しか出していない店もある。また、亀岡にはカリスマ農家がいる、霧がかかるのが野菜に良いと言っている。黒豆とか黒大豆もある。農産物だけでなくいろいろな資源、温泉もあり、資源をもっと活かせるのではないかと。これらはうまくつなげば昼間人口はあつという間に増えるのではないかと思う。新しいことに手を出していくのが面白い。

## B 委員

- ・イメージ作戦は良いが、住民負担をどう軽減していくことができるかが大事。住民税の引き下げは難しいと思うが、手数料や料金設定等、亀岡は京都市に比べて割安にすることができれば、インパクトになる。どの項目をどうするかも検討する必要がある。名古屋市等でも料金設定の改定などを行っている。そこまで踏み込んだ検討を事務的にやってみるのはどうか。

## 部会長

- ・施策の方向性の一つとして、医療費負担、給食費等、全体としてそういうものが軽減されているまちというアプローチもあると思う。施策の中で検討するほうがよい。
- ・いろいろな資源を有効的に活用できる場づくりを仕上げるべきという意見もあった。参考資料14ページ図表5の転出と転入の関係で京都市と比較すると、京都市から亀岡市への転入が若干多くなっており、亀岡市は衛星都市であることは間違いない。
- ・転入を増やす施策も方向性の1つだろうと思う。農山村地域を好む方が住めるよう、一定の基準の緩和や、空き家の活用も必要になると思う。人口フレームという考え方になると、施策に応じて、数字を直接的に挙げていくこともあると思う。

- ・1点目の議論をまとめると、人口フレームにおいて、計画全体の信頼性を損ねる数値を出すのはいかがなものかという意見、人口に基づき社会基盤が整備されていくため何らかの形の数値は出していく必要があるのではないかという意見があった。その数値も正しい数値で、信頼できるバックグラウンドを示しながら進めていくべき。また、人口フレーム自体を伸ばすよりも、昼間人口をどうするか、合計特殊出生率をどうするか、にぎわいをどう捉えるか、働く場所をどうするか、出産する年代の女性を注視すべきではないかといった、パーツを捉えながら検討をしていく必要があるという意見があった。
- ・活力、にぎわいの向上のために、あらためて言うておかないといけないというところがあれば教えていただきたい。

## B 委員

- ・外国人をどう考えるかを抜きにはできない。亀岡市に居住する外国人の方は現在約 1,000 人であるが、これからもっと増えていく可能性がある。一定の前提を置けば推定できるため、人口のところで触れるべき。

## 部会長

- ・前回の部会でも指摘があったが、外国人については、この 10 年大事になるだろう。
- ・にぎわいをつくるためにこれは大事というものを教えていただいたら次の施策に繋がっていくと思う。

## C 委員

- ・京都スタジアムができたこともあり、自治連合会で静岡県磐田市に視察に行った。サッカーやラグビー等、スポーツを中心にまちづくりに力を入れており、亀岡市も参考になる。

## A 委員

- ・高齢者の足の確保がどこも課題となっている。路線バスが廃止され、その人たちの足をどうするかということで、以前、左京区の 60 戸くらいの集落で議論をしたことがあった。茨城県境町でソフトバンクと組んで自動運転バスが定常運行で始まったというニュースがでていた。ドイツでは駅から中心市街地を通過して温泉まで 6 km の自動運転を既にやっていた。
- ・スタジアムの客は無理かもしれないが、湯の花温泉の送迎シャトルバスを自動運転化して、駅前や保津川下り経由で行くことが可能となれば、それだけでも一度乗ってみようとなるのではないか。第 5 次亀岡市総合計画の目標年次である 2030 年には確実に自動運転化は進んでいるだろう。そのため、第 5 次亀岡市総合計画に新しい要素をいれていくのが大事。
- ・車の自動運転と市内の高齢者のためのサービス、あるいは買い物に不便という方のニーズに応える自動運転のネットワークを作るなど、先進的な取組は面白いと思う。
- ・自動運転については、日本で認可されていないので、運転席に座っている人が必要になっているとのことだが、秋田県でも実証実験が始まっている。亀岡市はうってつけだと思う。高校生アンケートでも JR 一本では不便、もっと便利な交通機関がほしいという自由意見があった。そ

ういったことが自分たちのまちの誇りにもつながるだろう。

- ・働く場所について、京都市に近く、文化に触れることができる場所であり、シェアリングオフィスの需要もあるのではないかと。フェイスブックが京都にオフィスを作った。大手の産業が京都の人材を求めている。そういうオフィスが京都市ではなくネットで繋がり、作業を亀岡市で分担するなどできるのではないかと。
- ・佐賀県多久市では東京の仕事をネットで取り、若い母親で IT の仕事ができる人が佐賀県で仕事をし、子育てしながら十分な報酬をもらえるという例がある。鯖江市も東京・大阪の仕事を福井で行っており、そのようなオフィスを整えている。
- ・また、亀岡市のカリスマ農家はすぐにできるわけがないと言っているが、農業においても、AI でデータを蓄積して、気候に応じて肥料や水のやり方を変更し、おいしい野菜を作るといった研究を富士通、NEC が始めている。新しい時代の AI、自動運転など、あつという間に来る時代になるので、亀岡が先取りすると、若い人が亀岡市は面白いから行ってみたいとなると思う。

#### B 委員

- ・先端科学大学が日本電産と組んで自動運転の開発を行うと聞いている。

#### D 委員

- ・亀岡キャンパスは大幅に改造する予定とは聞いているが、具体的な青写真は聞いていない。工学部ができるため、AI を活用したキャンパスにしていく構想は聞いている。

#### B 委員

- ・世界的規模になり、外国人も来ると思う。

#### D 委員

- ・研究員が集まるようなものにしたいと聞いている。
- ・市の活力は何かと考えると、安全・安心なまちがある。亀岡はセーフコミュニティの認定を受けていることを考えると、地域力やまちの底力がどれだけあるか。災害が増加している中で、災害弱者となる高齢者、障がいがある人、子ども、子育て中の母親が安心して生活できることを政策としてうちだしていくべき。
- ・2018 年の台風で山が崩れ、先端科学大学付近も車が通れないところもあった。山間にある集落は孤立したとも聞いている。
- ・このような亀岡市が持つ地域特性があっても安心して暮らせるまちということをもっと打ち出しても良い。それには、住民同士のネットワークがあり、災害弱者と言われる人も何かあった時でも暮らしていけるということをまちの活力として出していっても良いと思う。

#### 部会長

- ・どういう魅力を伝えていくか。安全・安心は地域のネットワーク等から生まれてくる。新しいテクノロジーとして、AI、ICT などが進み、交通は 10 年後オンデマンドで無人のものが走って

てもおかしくない。日本電産や大学の動きなど、新しいものをどう取り込んで、活力として活かしていくのかについて書かないという選択はない。

- ・どれを中心に取りに行くかは市が考えてなければいけないが、そういうことを書き込む必要があると思う。

#### E 委員

- ・亀岡は高齢化が進んでいるが、AI や日本電産のニュースを聞いた時、亀岡市がうまくいくのではと期待を持った。
- ・若い人の意見も聞かなければいけない。自動運転を取り入れたいというのも若い世代。
- ・若い人の知恵を引っ張れるように、人材育成も大事。空き家を利用して事務所をつくるとか、職場に行かなくても仕事ができる時代であり、若い人の知恵を取り入れてほしい。
- ・亀岡市生まれではないが、もったいないと思う。亀岡は決定するのが遅いというのも聞いた。失敗もあるかもしれないが、スタジアムが出来たことをきっかけに、若い人の知恵も入れながら新しいことも取り組んでほしい。
- ・サンガが来るにしても市民は応援する意思があるのか。スタジアムができて車が増えて嫌というネガティブな意見もある。そのような考え方を払拭するためにも、シンボルプロジェクトの紫の花の種を配るといった取組で高揚感につなげてほしい。
- ・若い人の意見を取り入れてもらえる組織があったらうれしい。

#### 部会長

- ・わくわく感は大事。若者の意見も大事。セーフコミュニティなどでできているところをしっかりと見せることも大切という意見だった。

#### F 委員

- ・見ていて盛り上がるので、プロスポーツは大事。野球の広島カープやフットボールのカンザスシティは市民オーナーのチームである。以前住んでいたオレゴン州にはバスケットのポートランドトレイルブレイザーズがあったが、市民がとても盛り上がる。スタジアムができるタイミングであるため、力を入れたらよいと思う。

#### G 委員

- ・観光では三大観光が主力だが、それぞれの拠点はキャパが一杯で倍増えるということはない。保津川のラフティング、レンタサイクル、城下町のまちあるきなど増えてきているものの、単体で終わっており、つながっていない。観光拠点はあがるが、二次交通が不十分となっており、歩き回ってもらえるシステムが必要。また、簡単に泊まれる宿泊施設を充実していくことで更にぎわいのあるまちになると思う。

#### 部会長

- ・計画には観光のファクターは欠かせない。10年を見据えると二次交通の充実が必要である。

### 副部長

- ・若い人の意見が非常に面白いと思う。自分たちが暮らしているまちなので、いろいろ考えていると思うが、発表、実現する機会が少ないと思う。
- ・亀岡市全体の人口は減っている、中心部では増えており、篠も学校が満杯。周辺をどうしていくかが課題。若い人には農業に興味ある方もいることから、場をつくってあげるのがよいと思う。
- ・若い人の意見を取り入れていくのが非常に大事だと思う。

### 部長

- ・若い人の話を聞く場が大事というご意見。

### 副部長

- ・農業でも若い人が頑張っている。亀岡は農業をするには良い場所であり、市内の人はやらなくても他府県からきて頑張っている人がいる。それをどうやって増やしていくかが重要。

### 部長

- ・特区をつくって、そういう人が住めるようにするとか考えると良いかもしれない。
- ・議論をまとめると、亀岡市の特性を活かす必要があるという意見があった。環境というキーワードでは他市町村を抜いており、様々なところでクローズアップされている。もう一つはスタジアム。プロスポーツ、スタジアムをどう活用していくのか、いかに地域として、市としてこのポテンシャルを大切にすべきかということ。
- ・10年後に来る技術革新について、交通体系やAI、ICTの活用を踏まえることが必要。シェアオフィスについて、立地条件では佐賀県や徳島県とは比較にならない亀岡市のポテンシャルをいかに活かしていくか。日本電産のアプローチはわくわくを感じる。新しい技術の重要性をきちっとしていかなければいけない。
- ・これまでしてきた部分を見せることも必要。観光に関しては充足しているということもあったが、三大観光は比類ないものであり、年間100万人以上の来訪者で外国人も多い。
- ・セーフコミュニティ認証をとっており、安全・安心を打ち出せていることもみせていくべき。
- ・外国人が住む亀岡市をどう意識していくか。多文化共生をどう捉えていくか、踏まえる必要がある。
- ・毎月1回ほど、議論を進めていくと聞いているが、そのたびに議論を深めていければ良いと思う。必ずしなければいけないのはわくわく感を持つこと。それがなくならないように、委員一同、進めていけたらと思う。

## (2) その他

### 事務局

—資料No.3に基づき説明—

#### 部会長

- ・7月に中間案。毎月1回ほど議論していく。いろいろなご意見いただく中でよいものにしていきたい。進行を事務局に渡す。

#### 事務局

- ・貴重な意見ありがとうございました。内部でも議論して、策定部会に市の考え方を示していきたい。次回は2月17日。

以上